

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第11回 HWC標準作業会 議事録

1. 日 時 : 平成23年1月20日(木) 14:00~16:00
2. 場 所 : 日本原子力発電(株) 本店 2階 第1会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(委員) 内田、高木、和田、小野、小藪、谷(太田代理)、寺門、久宗
(常時参加者) 山本、太田、埴
4. 配布資料 :
 - 11-0 第11回 HWC標準作業会 議事次第
 - 11-1 第10回 HWC標準作業会 議事録(案)
 - 11-2 「HWC標準」の構成と目次案
 - 11-3 評価手順イメージ
 - 11-4 ラジオリシスモデルとECP評価モデルのV&Vの考え方
5. 議事概要 :
 - (1) 出席者の確認
出席者の確認を行い、委員8名中8名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
 - (2) 前回議事録確認
久宗幹事より、資料11-1「第10回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり原案どおり承認された。
 - (3) HWC標準の作成について
HWC標準作業会の活動を1年以上継続しているが、水化学管理分科会への具体的な進捗報告が出来ていないため、早いタイミングでHWC標準の概要(方針)について報告したい。
このため、構成と目次案について久宗幹事から、評価手順イメージについて和田委員から、V&Vの考え方について高木副主査から説明があり、以下の議論があった。
HWC標準は炉内ECPを評価する手法を標準化することとする。
また、ラジオリシスおよびECP評価モデルについては、V&V(検証: Verification と妥当性確認: Validation)法で精度と妥当性を検証することとした。
今回の作業会において、ラジオリシスおよびECP評価における検証: Verification と妥当性確認: Validation の例を示すこととした。(ラジオリシス: 東芝、ECP: 日立)
V&V法については、原子力学会での標準化の動きはあるが、V&V法の定義が不明確であることから、有識者との勉強会を計画する。
 - (4) その他
次回(第12回HWC標準作業会)は、有識者との勉強会に併せて開催することとした。

以上